

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4079900223		
法人名	社会福祉法人鷹羽会		
事業所名	グループホーム しじみ苑		
所在地 (電話番号)	福岡県田川市大任町今任原3485-1 (電話) 0947-41-8050		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価確定日	平成22年3月23日

【情報提供票より】(平成21年12月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建て		
------	----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 5,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
1日当たり1000円			

(4) 利用者の概要 (12月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	11 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川市立病院・森戸内科医院・本坂歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「しじみ苑」は今任原の高台に位置し、同法人のケアハウスが隣接されており、木造平屋建てのゆったりとしたバリアフリーの生活空間を備えている。ホームの事業方針を、相互扶助の精神と個人の尊重としており、法人全体での生活支援の充実だけでなく、家族や地域との協働にて積極的な社会参加を支援している。また今年度より、医療連携体制を充実させ、訪問看護師による適切な健康管理を行うと共に、今後想定される重度化した場合の支援について課題として捉え、本人・家族が、住み慣れた環境の中で安心して暮らし続けられるよう、家族・医療関係者・職員間での連携充実に向けて取り組み始めている。全職員を常勤採用し、安定した状況の中で「ひとりはおみんなのために、みんなはひとりのために」という理念の実践に向けて、取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題として、権利擁護に関する制度について、ケアハウスで行われた法務支局長の制度説明会に参加している。同業者との交流は市町村に働きかけ、昨年1回交流会を持つ事が出来ている。課題への取り組みは確認する事が出来、継続しての課題としたい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成については、管理者が中心となって行われており、今後の全職員の積極的な参加にも期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催しており、家族参加についても毎回便り等で案内している。今年度より訪問看護師の参加もあり、会議が事業所の報告事項等のみに終わらず、地域や家族へ認知症やターミナルケア等についても理解を得るための会議へと広がるよう取り組んで行く意向である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	職員は、家族の意見や要望などを気軽に話していただけるよう心掛けており、入居時に相談窓口の説明なども行っている。玄関に御意見箱も設置しているが、直接伝えてもらう事が多い。意見や苦情は事業所にとって宝と考えており、大切に受けとめ、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事の敬老会や文化祭、お神輿の見学などへ参加し、地域との交流を深めたり、近くの幼稚園・保育所や小学校とは、日常的・定期的な交流があり、地域とのふれあいの機会は多岐にわたっている。ボランティアの踊りや芸能等が披露されたり、隣接するケアハウスの方々と合同行事も含め、活発な交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	しじみ苑運営の基本理念として、「ひとりみんなのために みんなはひとりのために」を掲げ、地域との連携と家族との関係を大切に、相互扶助の精神と個人の尊重を入居者支援の柱とした事業所独自の理念がつけられている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	代表者の思いが込められた理念について、会議等で理解・共有を育みながら、管理者は解りやすく文章化し、職員に配布したり、リビングに掲示し、家族や来訪者にも理解が得られるよう取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域行事の敬老会や文化祭、お神輿の見学などへ参加し、地域との交流を深めたり、近くの幼稚園・保育所や小学校とは、日常的・定期的な交流があり、地域とのふれあいの機会は多岐にわたっている。ボランティアの踊りや芸能等が披露されたり、隣接するケアハウスの方々との合同行事も含め、活発な交流が行われている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価・外部評価を実施する事は、事業所運営に必要である事を認識し、毎年達成可能な課題について検討し、改善に向けて取り組んでいる。自己評価作成については、管理者が中心となって行われており、今後の全職員の積極的な参加にも期待したい。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催しており、家族参加についても毎回便り等で案内している。今年度より訪問看護師の参加もあり、会議が事業所の報告事項等のみに終わらず、地域や家族へ認知症やターミナルケア等についても理解を得るための会議へと広がるよう取り組んで行く意向である。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム しじみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	事業所の運営のみならず、入居者の方々へのサービス提供についても常に連携して取り組んでいる。今年度は、地域におけるグループホームの交流会発足への協力をしてもらったり、スプリンクラー設置についての相談・助言を得ている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関する制度について、隣接するケアハウスで行われた法務局の支局長の説明会に参加している。現状として制度を活用している方はいないが、資料の整備や理解を深めていく必要性は認識しており、課題として捉えている。		日常生活自立支援事業や成年後見制度について、資料の整備とともに内外の研修の機会を確保し、職員全員の知識を深めながら、活用に向けての支援が行えるよう体制作りが求められる。また家族や地域への情報発信等への取り組みも期待します。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	定期的に毎月「しじみ苑たより」を発行し、請求書などと共に家族へ配布・発送している。日頃の家族の来訪時や電話連絡など、随時必要に応じた対応を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	職員は、家族の意見や要望などを気軽に話していただけるよう心掛けており、入居時に相談窓口の説明なども行っている。玄関に御意見箱も設置しているが、直接伝えてもらう事が多い。意見や苦情は事業所にとって宝と考えており、大切に受けとめ、迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	全職員を正職員として採用し、サービス提供体制強化加算を得ている状況である。異動は行われておらず、安定している状況の中で馴染みの関係が築かれている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用については特に制限はないが、ヘルパー2級以上の資格取得者とし正社員採用としている。面接は代表者と管理者で行っており、本人の意欲や高齢者への温かい対応が出来ることを希望している。入社後の資格取得への支援を事業所として日頃から行っており、職員は介護福祉士や介護支援専門員の資格取得へ向けて意欲的に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム しじみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育については認知症ケアの基本と考え、日頃から代表者を交えたミーティングを行ったり、日々の実践に取り組んでいる。今後は権利擁護に関する制度を含めた、系統立てた資料作りで効果的な啓発活動になるよう取り組みたいと考えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	代表者は日頃から職員のレベルアップに熱心であり、費用の支援等も行っている。研修内容も栄養指導や救急救命等の研修参加にも積極的に支援している。管理者も日頃から職員と意見交換をしながら技術向上に努めており、習熟度に合わせた研修の調整など行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	大任町にグループホームが3事業所あり、行政の協力を得て昨年より同業者交流の機会を設けている。まだ交流会的な段階ではあるが、今後は情報交換や勉強会等で、質の向上に向けた意義ある会への発展を目指している。今後の継続・充実に期待します。		行政の協力による交流の機会を更に発展させ、ネットワークづくりや相互訪問、勉強会の開催等、今後の充実に期待します。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	新しい環境への適応は大きなストレスになると考え、本人・家族との話し合いの中で要望や不安を伺い、まずは馴染みの関係作りを行っている。事業所の見学や体験入居の機会も提供しながら、納得の上でサービスを開始している。職員は健康面・生活面の状況把握を行い、入居後のケアに支障がない様心掛けている。隣接するケアハウスからの入居もあり、関係性の継続への支援も行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者が不安なく安心して過ごせる事を相互扶助の精神と考え、支援される立場としてだけでなく職員を支える立場にあると考えている。例えば日頃の何気ない会話や生活から、高齢者の個別的な支援方法など多くの学びを得ている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム しじみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	職員は、日々の暮らしの中での何気ない言葉や行動の中から、入居者の思いや意向を見出せるよう、日頃の声かけや対応には特に配慮している。また家族からの情報も大切に、少しでも個別的な支援になるよう工夫している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護計画作成時には、本人・家族の思いや意向が反映され本人主体の計画になるよう、アセスメントから職員全員での意見交換を行い、その事で職員全員が計画を共有出来、実践に反映するよう努めている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	日頃のケア内容は詳細に記録するよう心掛けており、その事が毎月のモニタリングや担当者会議に反映でき、3ヵ月毎の見直しに活かされている。見直し以前であっても必要に応じて計画変更を行い、常に現状に即した計画としている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療機関への通院支援や、家族との外出・外泊の支援など柔軟に対応したり、併接のケアハウスとは行事やイベントなどを合同で行い、生活活性化の幅を広げている。また、中学生の体験学習の受け入れで事業所への理解を深めてもらっており、今後は事業所として対応出来る地域高齢者支援についても検討している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の意向を伺い、かかりつけ医や専門医の受診支援を個別に行っている。また、本年度より訪問看護師の週1回の定期的な訪問や、24時間連携体制が整備され健康管理の充実が図られている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム しじみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	今年度より医療連携体制を取り入れ、看取りに関する指針を示している。これまでに看取りケアの経験はないが内部研修を実施し、家族・医療関係者・職員間での話し合いを重ねながら、今後想定される重度化に向けての方針共有へ向けて取り組んで行く意向であり、課題として捉えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーの確保については職員全員で人権尊重を第一に考えた対応の実践に努めている。特に排泄時の支援については身体状況に合わせた支援で羞恥心が生じないように心掛けている。また入居者一人ひとりのプライベートな時間や場所の確保についても大切にしている。記録等に関しては鍵付きの保管庫で管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の生活リズムを大切に、個別的な計画による支援を行うことで心身の安定となるよう努めている。入居者を取り巻く環境の中の一つに職員もいることを自覚してもらい、入居者のペースを大切にケアをするように心掛けている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は一日の暮らしの中で楽しみであり、大切な活動の場であると考えている。入居者一人ひとりに合った作業の一部を職員と一緒にやる事で、心身の力の維持や向上に繋げている。食材については季節感を楽しんで貰えるよう努めており、レクレーションを兼ねてホットケーキ作りや季節のおやつ作りなど楽しみの輪を広げている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は2日に1回を基本とし、順番表を作成し、公平に入浴出来るように配慮したり、身体状況に合わせた支援をすることで全員が楽しんで入浴出来るよう支援している。体調不良時には清拭を行うなど常に清潔面への配慮を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム しじみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	訪問時には、エプロンをつけて台所で一生懸命調理をされている方もおり、洗濯物干しや洗濯物たたみ・食器洗いなどの役割りを担ってもらっている。入居者はパズルが好きな方が多く楽しそうな顔を見せてくれる。役割や楽しみごとにしても強制ではなく選べる楽しさも提供できるようにしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	外出は楽しみや気晴らしの支援に繋がっており、散歩等は車椅子や杖を持ってなど、入居者の希望や身体状況に合わせた支援を行っている。併接のケアハウスの友達との相互訪問や受診を兼ねてのドライブ、家族との外出等多彩な支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の行動パターンを把握すること・事務所からの見守り体制・玄関のセンサー設置を行っており、現在施錠をしていない。家族やケアハウスからの訪問者も多く、自由に人の出入りができる。外に出る時には職員が付き添うこともあり安全を保てるように配慮している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防・避難訓練は年2回、昼夜想定での計画で実施し、消防署からの指導助言を得ている。(寝具を利用した救出訓練等)また、運営推進会議で地域住民の協力依頼を行い了解を得ており、避難場所も確保している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立については減塩を心掛けている。その他疾患や摂取状況によって個別に対応しており、少しでも残食のないよう高齢者の好みに合わせた献立としている。水分摂取については800～1000ccとし、制限者については指示の徹底を行い、診察時の資料としている。体重測定は月1回実施し、食事・水分摂取量を記録している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム しじみ苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	グループホームの名称にある「しじみ貝」は、水質の浄化作用が大であると言われており、事業所の生活環境の調整維持についての配慮はもちろん、人的環境についても、管理者も職員も十分に考慮し実践している。また建物外周りはペランダでの日光浴や洗濯物干し、花壇に季節の花を入居者と共に植え、草取りや水遣りなど楽しみや活動の場として利用している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室環境作りについては家族の協力を得ながら、入居時に自宅で使い慣れたものを持参して頂き、入居者の希望を聴いて設置している。その事で環境の変化を少なくし、安心した生活出来る事を家族に説明している。また日々の生活で必要に応じて家族と相談し、持参して貰ったり、本人と共に買い物に出掛けている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			